ことができるようになった。

図1

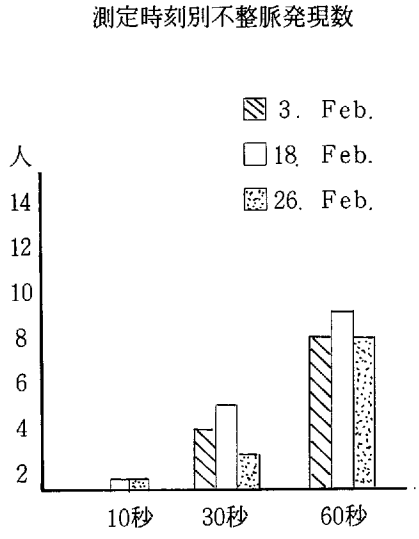
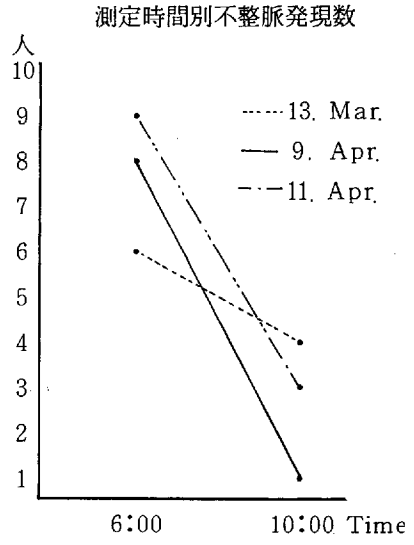


図2



45 テーラーブレス装着の問題点について

国立療養所鈴鹿病院
山中ユキ子　森　静代
酒井憲子

進行性筋ジストロフィー症ドウシャンヌ型患者に頻発する脊椎の変形は、心肺機能に多大の影響をおよぼすので、彼らの延命上その増悪防止の必要性が指摘されている。

当院では、テーラー式体幹装具を用いて、脊椎変形の予防、矯正を試みたので装着後現在までの約1年間に生じた看護上の問題点につき報告する。

〔対象及び装着方法〕

対象は、入院中のドウシヤンヌ型筋ジストロフィー患者8例で、障害度6度6例、7度2例である。年令は13～15才。毎日午前8時～9時までの13時間上着の上から装着した。

〔結　　果〕

看護上の問題点としてあげられた事項は次の3点であった。

① 食欲減退、胃部不快、呕気呕吐、胸部圧迫感、背部痛、上胃部痛等の諸症状が全員にみられた。

② ＡＤＬの変化では、坐位保持時間の減少、いざり移動、車椅子移動の能力低下、四つばい不能、自立による排便排尿動作の減退等が出現した。

③ その他としては、脊椎変形や肥満により装具が骨盤位置より上にあがり、所定の位置に装着できなくなること、また、肩甲骨を圧迫して強度の疼痛が起こったことがあげられる。さらに装着後の体重増加（４kg）により、腋下及び腹部にベルトがくい込み装具先端が浮き上がるなど装具そのものの問題も出現した。このような諸症状は、装具を除去することにより軽減及び消失した。

〔考　　察〕

脊椎変形の進行を防止する目的で、テーラー式体幹装具を使用したが、既述したいくつかの問題点が出現した。ＡＤＬの低下については、看護方針として残存機能の維持、身辺の自立を目標としているのに、装着によるＡＤＬの低下が、自立の範囲をせばめるという事になった。

また、高度障害者に装具装着を行ったのは今回がはじめてであり、装着指導方法、装着時期の検討がさらに必要であったと思われる。というのは装着を嫌がったり、何かと理由をつけてはずさせようとする訴えもあり、患者の中には装具による体型変化、病状悪化を主張する例も現われた。さらに夏期においては、暑さや汗疹のため装具を一時除去したことから再装着をいやがり、52年10月には全員装具を除去するという結果になったからである。

46 おやつ時間の改善試行

国立岩木療養所
小児ＰＭＤ病棟スタッフ一同
七　戸　千　恵

ＰＭＤ児の食事摂取量が少ない事をとりあげ「食事指導からみた小児献立の必要性」について51年度の班会議で発表した。その考察より、おやつ時間と食事時間の相関関係がとりあげられその改善をみる事ができたので報告する。

〔研究目的〕

1. 夕食が早すぎ夜間空腹のため寝れないという。表１の如く約半数である。

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

進行性筋ジストロフィー症ドウシャンヌ型患者に頻発する脊椎の変形は、心肺機能に多大の影響をおよぼすので、彼らの延命上その増悪防止の必要性が指摘されている。

当院では、テーラー式体幹装具を用いて、脊椎変形の予防、矯正を試みたので装着後現在までの約１年間に生じた看護上の問題点につき報告する。'